

特集

出張!! なんでも意見交換会

女性消防団員



総務財政常任委員会

今回の「議員と語り合おう 出張!! なんでも意見交換会」は、湯沢市女性消防団員の皆さんから、

「消防団活動で感じたこと(感じること)」

について語っていただきました。

Interview

女性消防団員の皆さん



女性消防団員の活動や魅力の情報発信を行い 市内全域に女性団員を確保し、活動を充実させたい

Q. 入団してよかったこと、苦労したことは?

■保育園などの防災教室では活動服や制服を着用していくととても喜んでくれる。講話は大変だが子どもたちとの関わりがとても楽しい。今後も続けたい。
■活動中ではなかったがショッピングモールの駐車場で倒れた人を見かけ率先して駆け寄り、救助に当たる自分がいた。消防団に入って意識が変わり自信が持てるようになった。
■子どもが小さかった頃は休日の活動の際に子どもを預けるのに苦労した。

Q. 消防団活動で感じたことは?

■職場によっては勤務日の消防団活動に理解を得るのが大変な場合がある。
■「防災行政無線が聞こえない。何を言っているかわからない。」という人は情報を取ろうとする意識がある人。他の手段での情報の取り方をきちんと周知すれば伝えられると思う。「興味がない。自分は大丈夫。」と知っている人たちの意識を変えるのが難しいが、女性部として啓発活動などで貢献している。

◎湯沢市消防団

佐藤孝吉団長にお話しを伺いました。

高橋委員長 女性消防団員の活動についてどのよう感じていますか。

佐藤団長 女性部を中心として防災講話で活躍しているほか、火災現場などでは被災者への精神的ケアや気遣いなど、女性ならではの活動を頑張っていることにその存在の必要性を強く感じています。